

各位

平成 26 年 12 月 1 日
公益財団法人 日本英語検定協会

英検 CBT 二次試験を開始

受験者のコミュニケーション能力を測定する
コンピューターを使った双方向による面接試験の実現

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川 孝一、所在地：東京都新宿区、以下、「英検協会」）は、来年 2 月に実施する第 3 回検定より、実用英語技能検定（以下、「英検」）の一次試験の CBT (Computer Based Testing) 受験者を対象に、二次試験（スピーキング）でも CBT による面接試験を開始いたします。

英検 CBT は、英検の受験機会の拡大と利便性の向上を目的に、今年度第 1 回検定より、まずは一次試験（筆記・リスニング）で全国導入いたしました。従来的一般公開会場での年 3 回のペーパーテスト方式（Paper Based Testing、以下、「PBT」）での試験日とは別日程で、CBT でも全国 12 会場で年 3 回の試験を実施し、年 6 回の受験機会をつくりました。CBT では午前、午後のいずれか都合のよい時間帯で受験いただける利便性もあり、これまで一次試験を CBT で受験した受験者からは二次試験も CBT 化を望む声が多数寄せられておりました。

英検協会では、こうした皆様から寄せられたご要望にいち早くお応えする必要性を認識し、取り急ぎ次回の第 3 回検定の一次試験の 2 級と準 2 級の CBT 受験者を対象に、まずは東京 1 会場（新宿区）から CBT による二次試験の面接試験をスタートさせます。以降、随時会場数を全国規模で増やしていく予定です。

英検 CBT 二次試験は、他の語学検定試験における CBT 形式のスピーキングテストのような、コンピューターから流れる質問に対して受験者が答え、それが自動的に録音され、その録音された音声をもとに採点する吹き込み式の一方方向のテストとは異なり、インターネットベースのミーティングシステム（Skype™や Cisco WebEx®等）で結ばれた面接官とのリアルタイムの対話によって受験者のコミュニケーション能力を測定するインタラクティブな面接試験となります。英検のスピーキングテストとして長年にわたり実績のある、対面式の試験形式を継承した CBT として開発いたしました。このようなインタラクティブな対面形式の CBT は、語学検定試験としては他に類を見ないテストです。ただいま英検協会のウェブサイトのトップページにおきまして、英検だけでなく、英検協会が実施・運営する、IELTS（海外留学向け）、BULATS（ビジネス向け）それぞれの検定試験におきましても、そのスピーキングテストの模様をアップしております。英検協会の特徴である、双方向の対面式スピーキングテストのイメージ映像としてご参照いただければと存じます。<<http://www.eiken.or.jp/speakingtest/>>

なお英検 CBT 二次試験は、来年度（2015 年度）の第 2 回検定までは、一次試験 CBT 受験者のみを対象として実施いたしますが、続く第 3 回検定からは一次試験を従来の PBT で受験した受験者へも受験機会を広げていく予定です。上述の通り、実施会場につきましても徐々に全国へと広げてまいります。試験日程としては従来の PBT の試験日（一般公開会場・団体受験の準会場）とは別日程で CBT を実施し、検定料金につきましては公開会場での料金と同料金といたします。今後の実施内容につきましては、随時更新される英検 CBT のウェブサイトにてご高覧いただきますようお願い申し上げます。

<<http://www.eiken.or.jp/cbt/>>

また現状の英検 CBT は全国的一般公開会場向けのサービスとして実施しておりますが、将来的には学校を主体とする団体受験の準会場向けサービスとしても展開していく予定です。さらに実施級につきましても随時拡大していくことを想定しております。

今後も英検協会は受験者の皆様のニーズに寄り添い、“いつでも、どこでも”受験できる試験となるよう、受験機会の拡大と利便性の向上に努めてまいります。



【「英検 CBT 二次試験」の実施イメージ】



【「英検 CBT 二次試験」開発の背景】

- 文部科学省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」等におきまして、大学入試に4技能（「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」）を測定する試験の導入が求められています。一部の大学入試ですでに4技能を評価できる、資格・検定試験が活用されている一方で、大学入試センター試験を廃止して新たな試験として「高等学校基礎学力テスト(仮称)」、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」へ移行していく動きが見られます。これらのテスト実施に際して、試験のCBT化も検討されており、入学試験や検定試験のCBT化は、これからの時代において避けて通ることのできない動きであると英検協会でも重く受け止め、このたび一次試験(筆記・ヒアリング)に続き、二次試験(スピーキング)での面接形式による双方向のCBT開発に至りました。

【「英検 CBT 二次試験」の特徴】

- 従来の英検の二次試験の形式を継承し、双方向による対面式の面接試験がオンライン上で実現します。
- 来年度中に一次試験をCBTで受験した受験者だけでなく、PBTで受験した受験者にも二次試験をCBTで受験いただけます。
- 今後は実施回数を増やし、会場数も全国規模でより多く確保してまいります。
- 受験者はコンピューター操作をおこなわないので操作が苦手な方も安心して受けられます。
- 通常の面接試験と本CBT試験での結果に大きな差がないことは実証実験で証明されています。

【「英検 CBT」の詳細】

下記ウェブサイトにて詳細を随時公開してまいります。 <http://www.eiken.or.jp/cbt/>

- * Skype は、Skype の商標です。英検協会は、Skype グループ会社の関連会社や提携会社ではなく、また Skype グループ会社から後援や承認は受けていません。
- * Cisco WebEx は、米国およびその他の国における、Cisco Systems Inc. および関係会社の登録商標です。